

環状線で非日常を！ 大阪環状線フリーペーパーの制作



活動の目的

- 1 | 通常は単なる通過駅ととらえられがちなJR大阪環状線各駅の周辺の魅力を再発見する
- 2 | 大阪環状線沿線と大阪市内の地域活性化

連携にいたる経緯

JR大阪環状線の利用者はきわめて多いものの、各駅について意外と知られていないのではないか、という問題意識のもとに、沿線のまちあるきに便利なフリーペーパーの制作を立案。これがJR近畿統括本部の大阪環状線改造プロジェクトの意向と合致し、全面的な協力を得られた。

活動内容

大阪環状線の全19駅について、各駅ごとに1ページずつ使い、比較的知られていないがユニークな魅力を持つおすすめのスポンを1箇所ずつ紹介するというコンセプトで制作を進めた。取材にあたっては学生自身が全駅の周辺を自分の足で歩いて聞き取りをし、インターネット上の情報以外で3つ以上新しい発見をするというノルマを課して記事をまとめた。誌面構成において、各駅に定められたシンボルフラワーを取り上げ、そのイメージカラーをもとにページのレイアウトをおこなうことで、統一感を醸し出した。完成したフリーペーパー（A5判中綴じフルカラー全32ページ）は、JR大阪環状線内の主要6駅（大阪、天王寺、京橋、鶴橋、新今宮、西九条）の構内で2018年3月1日から31日までの1か月間配架され、駅の利用者に配られたほか、3月24～25日に万博記念公園で開催された万博鉄道まつり2018でも、京都鉄道博物館のブースで配布された。

活動の成果

- 1 | 大学の教育設備を駆使してクオリティの高いデザインワークに仕上げることができた
- 2 | 「非日常」を紹介するという意図のもとに丁寧な取材を重ねたことで、JR関係者からも「初めて知ったことも多く感心した」とコメントがつくような内容の誌面を提示することができた

今後の課題・目標

- 1 | デザインワークの入稿にあたってのフィニッシュの部分で、知識不足による不備があったこと
- 2 | 当初の想定以上の大きなプロジェクトとなったことで、パブリシティ等を考慮しておらず、後手の対応となったこと

DATA

●主な連携先・メンバー

西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部大阪環状線改造プロジェクト／(株)JR西日本コミュニケーションズ／JR大阪環状線各駅周辺の商店等／関西大学総合情報学部 岡田朋之ゼミ環状線チーム

●活動地域

大阪市内・JR大阪環状線沿線地域

●活動資金

西日本旅客鉄道株式会社による印刷・製本費用の負担



●教員紹介



総合情報学部 教授 岡田 朋之(おかだ ともゆき)

専門はメディア論。情報メディアの革新が人々の日常生活とどう関わっていくかについて、主に携帯電話やスマートフォンなどのモバイルコミュニケーションの変化から研究している。ゼミでは「メディアをつくる、社会を考える」をテーマに置き、メディアやイベント等の制作を踏まえて社会の問題を考察することを課している。